

親子で考えた迷い人との共生

アイデアのきっかけ

12年前大学生だった娘が応募したある論文を、最近の社会情勢に照らしながら親子で振り返ってみた。論文の内容は、娘が将来“主婦”になった時の「幸せな暮らし」、「来訪者へのもてなし」、「不測の出来事」を想像し描いたものである。その中で、人が少なくなる時代に女性や高齢者が生き活きと働ける仕組みを提案した「幸せな暮らし」に着目し、今や社会問題化している“中高年齢層のひきこもり”について話し合い、『生活困窮者』（以下、迷い人と略記）との共生に関するアイデアを提案する。

（以下は具体的な会話スタイルで表現）

今、ひきこもりやニートってどんな状況？（迷い人の現状）

- 父：40～64歳の中高年のひきこもりが全国で61万人だって。7割が男性、ひきこもり期間は7年以上が半数らしい（2019/3/29 内閣府発表）。
- ◇ 母：ショッキングな調査結果ね。ひきこもりは子供や若者の問題と思ったけど、今や中高年へと広がりつつあるのね。長期化すると病気や重度障害、深刻な生活困窮へと進むかも。
- 娘：ひきこもりになったきっかけって何だろう？
- 調査では、退職した(36%)、人間関係(21%)、病気(21%)、職場適応(19%)、就職活動(6%)が要因らしい。
- ◇ データだけでなく、色々な条件が重なっての結果と思うね。
- たとえば？
- ◇ 私が推測するのに、生育環境や個人の資質、よく言われる就職先の適合性、定年退職後の社会との接点を見いだせないとかじゃない。
- 論文に書いた自然に触れあうとか、稲や野菜の植え付けなどに多くの担い手が関わることで満足できる日常生活が送れるという単純な構図ではないかもね。

これまで、どんな取組がなされてきたのだろう？

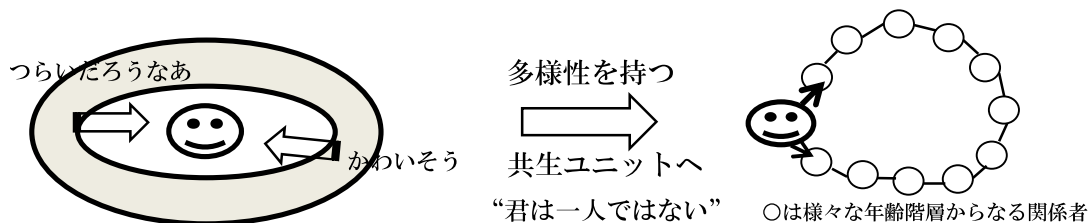
- さっき考えた農業活動を通してのひきこもり対策事例は沢山あると聞いている。おそらく、働く＝生産する…生産で自己の存在と達成感を得ると考えると“農業”はその仕組みが分かりやすく取り組み易いのかも知れない。
- ◇ このあたりもそうだけど、農業の現場は、担い手が減少していることから働き手がないという問題があるね。
- 一方で、ひきこもりに関わる福祉面からは、迷い人の働く場がないという問題が伺えるね。
- ふたりの問題意識だと、それぞれの問題がそれぞれを補完してくれそうだね。
- そうだね、農業の現場が福祉と結びつきやすい「農福連携」という事例がまさに進んでいるらしい。但し、その対象はどちらかというと障害者支援が中心で、全国各地でかなり進んでいる。

- ◇ でもね、一方で 80 代の親が 50 代の子供を看たり、障害などで将来を危惧した無理心中といった悲惨な事件も発生しているね。私の介護経験からすれば、今後、中高年層のひきこもりは、生活実態や健康状態をしっかりと捉えないと本質はわからないかも知れないね。
- それと、バブル崩壊後の就職氷河期では好条件の仕事がなく、非正規雇用やニートになる新卒者が多かった記憶もある。中高年のひきこもりと重なる世代層もその一部じゃない？

生きがいの場は一体どこにあるのだろう？

- お父さんが得た情報では、担い手不足の農家と働き場を求めるニーズが合って就業機会を得た事例を紹介するね。迷い人が葡萄農家に申し込み、陽光下の袋かけなどの作業を中心に定期的に従事している。外から見ると微笑ましいと思うけど、一朝一夕には進まなかったらしい。現実には、初めから正規作業は無理で、まずは農業の魅力を体得することを優先させ、訓練を重ね時間をかけて本格作業に移すらしい。それは、彼らが歩んだ様々な事情を抱えてのチャレンジだからね。
- 私が描いた「里と街が通じ合い、それぞれが助け合う」提案の新たなスタイルになりそうね。もし農家の計らいで、道の駅に担い手の名前が入った葡萄が並べば、さぞかし嬉しいだろうね。この例含めて、彼らの生きがいを見出すには、何からどう取り組めばいいのかしら？
- その前に、「中高年齢層のひきこもり環境が一律ではないこと、彼らの立ち位置がどこなのか」を共通のポイントにして考えた方がいいね。

どうということかと言うと、日頃、彼らは周辺から「かわいそう」「つらいだろうなあ」といった印象を投げかけられがち（左図）、でもそれでは何も改善ならず、日常のパートナーとして手を取り合っただけの暮らし方に意識を変えることが必要だな（右図）。



- ◇ そうです！彼らの歩んできた中味と今後の方向を見出して“共生”することね。
- その展開には色々なカタチがありそうだな。まず、4年前に退職したお父さんは「果たして現役時代の分野で続けたいけど、なかなかオファーが来ない」という不安が引き金になってひきこもりへと移るケースがあると考えた（①退職後の機会）。
- 私が就職活動時期に感じたのは、「相当の学歴はあったが、才能が発揮できる場を見いだせず、意思伝達も苦手で職に就けなかった」ため、気がつけばひきこもり状態になっていた…という事例かな（②才能発揮の機会）。
- ◇ 介護経験からまとめると二つあると思う。ひとつは「夢は持っているけど、特別に自慢する才能は無く、若さでアルバイトを続けてきて、気づけば生業の目的が見いだせず、心身共に疲れてきた」（③夢抱けど喪失感）事例。もう一つが「中高年の時期に職場の後輩から蔑視されてきた」、「能力は持つが他人とのコミュニケーションがとれない」（④中高年の自信喪失）といった事例ね。

- うーん、こうした事例から伺えるのは、迷い人を弱者的扱いする構図から多様性を尊重して共生社会へと導く心のサポートが必要ってことかな。彼らの中には知られざる※“ギフト”がいるかもね。それじゃあ、彼らが新たな就職環境になじみ、満足いく日々が送れるためには、どういう進め方あるいは仕組みが必要かを考えてみようか。

※ギフト：生まれながらにして特異的な学習能力をもつ人

迷い人との共生へのアプローチはこれです！

- まず、②才能発揮の機会に対する私の提案です。

おそらくこのタイプには、才能と得た知識をうまく繋げられるプロセスが必要かな。例えば、経済系の道を進んだが結果として意を得なかったジレンマを異分野に見いだす取組として『酪農農家を手伝いながら、そのプロセスの課題を引き出してもらい、それをヒントに生産を上げる“目から鱗”的な仕掛けやアイデアを生産者が引き出す。そして、幾つかを活かした製品を市場に出し自分の存在を実感する。これを繰り返すうちにそのポジションを付与する』…とか、花卉販売も同じかな。

- ◇ あなたの提案のとおり、取組には支援する組織と現場の提供が必要だね。例えば、高齢者の農家とJA（農協）との請負契約の中に困窮者の登録を織り込み、彼らには、研修後に農家の手伝いを行いながら時間をかけて新たな担い手となってもらう仕組みだね。

介護職に就いていた日頃の感触から③夢抱けど喪失感と④中高年の自信喪失について提案するね。迷い人たちが享受したい共通の言葉は『見出した職を通じて共に社会に貢献している自負』かな。しかし、担い手を求めるグループに迷い人との共生が大事だと気づいていないことが多いのが残念。

期待できる現場のひとつに“災害ボランティア活動支援”や地域イベント（夏祭りなど）のスタッフ支援がありそう。かなりの重労働だけど、自己完結型で被災者から直接に感謝の言葉が聞けるし、主催者やイベント参加者（異分野との交流）により、気づかなかった能力の開花につながる身近な取組かも知れないね。




- しんがりに、①退職後の機会に対する提案を聞いて下さい。定年退職までの履歴を辿ると40年余りの中で仕事ぶりは当然変化し、進歩する。大切なのは、まず、どう指摘され評価されようと永年培った糧を誇りに持つこと。その誇りが発揮できることが身近にないかを同年代の方々と話せる町内会活動やサークルに参加して探ってみるのはどうだろう。自分がないもの、他に役立つことが職として見いだせるきっかけになると思うよ。また、森林浴的な機能を兼ねた里山保全活動や河川・湖沼で子供らと学ぶ環境学習（知見伝承）を繰り返し、やがてはリーダーとして就くことも期待できる。

介護環境も多くの担い手を必要としている。たとえば、安全運転に自信はあったがプロ運転手にはなれなかった方の送迎運転業務はウエルカムだ。さらに、共働き家庭における塾の送迎運転代行も当てはまりそう。共働き家庭に付きものの保育支援では、学校または自宅での保育と学習機会の提供など如何でしょうか。これらの活動に就きながらそれぞれの進むべき道程が明確になると思う。こうやって見ると、退職後も多忙を極めるなあ。ちなみに、退職後も※プロボノ活動を通じ生き生きとした生活を送っているお父さんは偉いだらう…

（母・娘無言）。

※自己の知見や知識を世の相応しい場面で活かす専門家

- さて、気づけばもう 12 時を廻ったね。話は尽きないけど、中高年のひきこもり（迷い人）を 4 つに分け、共生に向けて推奨する取組とその効果をまとめようか。

迷い人のタイプ	共生生活へのアプローチ	効果
①退職後の機会	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 誇りを持ち、役立つ場を身近に探す ・誇りを町内活動、サークル活動仲間から再発見 ・子供たちとの時間共有の場に活かす（送迎・学習） ・介護の現場で先輩者たちへ能力提供（送迎） 	世界観や誇りの広がり 
②才能発揮の機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 達成感を味わいながら、ある職域に到達 ・農家や園芸そして工芸活動へのチャレンジ 	健康回復、才能の確信 
③夢抱けど喪失感	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 夢の一步として社会貢献の機会を見出しながら新たなチャレンジへ ・災害ボランティア活動からプライドを取り戻す 	
④中高年の自信喪失	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 無関係意識を捨て、世代を超えた身近な社会貢献の機会にチャレンジ ・地域イベントスタッフとしての参加（出店手伝いなど）から新たな適合域を見出す 	能力域の拡大と自信 

- この話し合いで、改めて「迷い人」への認識とその取組過程が見えてきた感じがしたね。そして、一番大事なのは“認め合うことが チカラになる”ってことかな。
- ◇ これから、個々のアイデアをどう適応するかは、色々な条件と向き合いながら、社会全体が恩恵を受ける展開が必要だね。そして、主婦になったあなた（娘）の育児に役立つと思うよ。
- ◇ そうだね。お父さん、お母さん…今夜はありがとう（娘）